

奨学金制度について、あなたの声を聞かせてください！

中央労福協ホームページへの投稿より（2020年1月～9月）

中央労福協ホームページの投稿コーナー「奨学金制度について『あなたの声を聞かせてください！』」に寄せられた声の中から、多数いただいたご意見や特徴的な点について概要をご紹介します。寄せられた全ての「声」は別冊をご参照ください。

1. コロナ禍や家計急変への対応についての声

- コロナ禍により収入が減少しているにもかかわらず、家計基準が前々年度の年収で判定されることへの疑問や不満の声が多数寄せられている。
- 家計急変による支援も行われているが、寄せられた声からは「書類がそろわず断念」したり、制度の周知不足などにより十分に利用されていない状況も伺える。
- 学生支援緊急給付金について「全ての要件に当てはまる学生数はほんの一握り。危険にさらされても働き続けなければならなかった学生には給付されないのか」との声も。
- 奨学金返済者からは「この状況が長引けば会社が倒産しかねない。減額返済、返済期間延長ではなく、せめて1～2年は返済額を免除にするなどの政策を」との声も。

2. 所得制限で支援が受けられないことへの不満の声

- 所得制限をオーバーして大学等修学支援新制度や無利子奨学金、有利子奨学金の支援を受けられないことへの不満の声が多数寄せられている。
- 「娘の大学進学のために仕事を変えダブルワークをしたことにより家計基準をオーバーし新制度が利用できなかった」「親族や医療費負担の大きい親への援助で少しも貯金できず、自身も難病治療の負担がある。ひとつの物差しで決めないでください」「私立高校の学費を全額払い続けているため貯金する余裕もない」「せっかくの制度なので、恩恵を受ける学生が一人でも多くなるような制度設計をしてもらいたい」など。

3. これまで受けられていた支援が受けられないことへの怒りの声

- これまで大学の授業料減免を受けられていたが、新制度により全大学で基準が統一されたことにより減免を受けられなくなった学生や親から「授業料免除を利用して親を楽にしたかったのに残念」「子どもを進学させるため夜勤もしているのに」「せめて給付奨学金と授業料免除の紐付けさえなければ」などの声が寄せられている。
- これまで子どもが授業料免除を受けてきたが、老後資金として貯めてきた貯金が資産要件にひっかかり新制度では対象外になり、「こんなことなら不動産を持って貯金を減らしておけばよかったと悔やんでいる」との声も。

4. 支援を受ける人、受けられない人との間の不公平を批判する声

- 新制度の対象外となった中間層の方から、真面目に働いて納税してきた税金が中間層には恩恵がなく低所得者層のみの支援に使われていること、自分たち（子ども）は奨学金返済を背負い借金を抱えていくことについての不公平感や不満の投稿が多数寄せ

られている。その怒りの矛先が、支援を受けている生活保護世帯、住民税非課税世帯、母子家庭などの社会的弱者に向けられた投稿が多数あり、社会の分断が懸念される。

- 改善要望としては、「中間層にも同じように支援してほしい」「学費が安くなるようにしてほしい」など支援対象の拡大や学費軽減への要望が強い。

5. 親の収入で判断されることがおかしいとの声

- 「奨学金制度は、虐待で親の援助を受けられない学生に対応していない」「一刻も早く親の収入という要件を外すか、別居かつ仕送りなしのケースにおいては親の収入を0として認定できる制度とすべき」「借りるのは子どもで、定年退職後の親の収入は激減する」など、親の収入で判断されることへの批判の声が寄せられた。

6. 奨学金等の支援を受けている人からの声

- 支援を受けている非課税世帯等への批判的な投稿に対して、「給付型奨学金について攻撃することはやめてほしい。将来を悲観して自死を選ぼうとする者に手を差し伸べてくれたのが、高等教育であり奨学金でした。給付型奨学金が、辛い環境にある人々の希望であるような形で継続されることを、強く望みます」「非課税世帯が非難される事が苦痛でたまりません。非課税世帯の中には、病気で苦しんでいる人や虐待の影響に苦しむ人達が頑張っていることを考えて下さい」との訴えも寄せられた。
- 新制度の利用者から「進学先では、入学金と授業料は正規の金額を納め、後に還付される。それを用意できないからこの制度を利用しているのに納得いかない」との声も。

7. 給付型奨学金の拡充や無利子化を求める声

- 「せめて無利子にしてほしい。もう少し、所得制限なし、無利子または給付型の奨学金が増えてほしいと切に願っている」などの声が寄せられている。

8. 奨学金の返済に関する苦悩や返済者への支援を求める声

- 「正直、返済が地獄です。奨学金のせいで今後の人生に希望がもてません」「結婚、出産等は自分に縁がないものとして諦めました。家や車なども夢のまた夢」「もうすぐ30歳になりますが、結婚・出産は諦めなければいけないのか、将来を考えるのが怖い」など、人生設計がたたないことへの悲観の声が多数寄せられている。
- 「返還を続けている人、やっとのことで返還を終えた人には何の恩恵もない。不平等すぎる」「現在返済している方、これから返済が始まる方も対象に返済義務を無くしてほしい」「全額とはいわないけど、せめて残りの返済額10%ぐらい免除してほしい」「せめて現在返済中の人たちの金利を今水準まで下げてほしい」「私たちの世代にも救済が欲しい限りです」など、返済者への何らかの支援を求める声が多数寄せられている。
- 「奨学金の返還支出を所得税の控除対象にしてほしい。なぜ、住宅ローンが控除されるのに、苦しい中から必死で払っている奨学金の返還は控除されないのか」との声も。

以上